

# CBC NEWS LETTER

Vol.10, No.1, Jun.2009

国立大学法人  
小樽商科大学ビジネス創造センター



ニューズレター [Vol.10, No.1]

## INDEX

1. 「平成20年度産学官連携研究成果報告会」を開催しました
2. 「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト成果発表会」を開催しました
3. 平成21年度ビジネス創造センター体制
4. 主要日誌
5. 投稿案内

1

## 「平成20年度産学官連携研究成果報告会」を開催しました

3月6日(金)に札幌サテライト大講義室にて「小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)産学官連携研究成果報告会」を開催しました。今回の報告会は「i-vacsプロジェクト」と「地域連携におけるコーディネーター」について2本の報告を行いました。

当日の参加者は約40名でした。

報告会の内容は以下のとおりです。

- 13:00 受付開始
- 13:30 ご挨拶 小樽商科大学ビジネス創造センター長 教授 海老名 誠
- 13:40 「仮想空間による地域活性化-i-vacsプロジェクトの試み-」  
近藤 公彦(小樽商科大学大学院アントレプレナーシップ専攻教授  
ビジネス創造センター研究部主任)

\*i-vacsプロジェクトは、現実の街並み(狸小路商店街)を仮想空間上に構築し、そこでさまざまな情報を提供することで、街に賑わいを取り戻し、地域を活性化しようとする試みです。商大生をメンバーとする事業化へ向けての過程も報告されました。

- 14:20 質疑応答
- 14:30 (休憩)
- 14:40 「地域連携におけるコーディネーターの役割と課題」

富樫 誠(小樽商科大学ビジネス創造センター地域連携推進コーディネーター)

\*発表者は小樽市との包括連携協定の締結により、昨年4月より小樽商科大学に派遣され、地域連携推進コーディネーターの任にあたっています。コーディネーターの役割とはどのようなものか、実際にどんな仕事をしているのか、「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト(通称:マジプロ)」の取り組みを例に発表しました。またこれらの活動を通じ、コーディネーターとしての課題をどう捉え、今後の活動にどう反映させるかが報告されました。

- 15:20 質疑応答 15:30 閉会



海老名センター長



近藤公彦教授



富樫誠コーディネーター

## 2

## 「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト成果発表会」を開催しました

3月14日(土)に小樽市民センターのマリンホールにて、第5回小樽商科大学地域活性化セミナー経済産業省「社会人基礎力育成・評価システム構築事業」「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト成果発表会」を北海道経済産業局との共催で行いました。

■と き 平成21年3月14日(土)13:00~16:45(開場12:30)

■ところ 小樽市民センター マリンホール  
小樽市色内2丁目13番5号 TEL:0134-25-9900

■入場料 無料

■主催 国立大学法人 小樽商科大学/経済産業省北海道経済産業局  
/小樽商科大学地域連携協議会

■共催 小樽市

■後援 小樽商工会議所/(社)小樽観光協会/北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部

小樽は全国有数の観光地として、国内にとどまらず近隣諸国からも、多くの観光客を受け入れるまでに急成長しました。一方で小樽観光には課題もあり、今後も魅力的であり続けるために、速やかに対策を講じる必要があります。同プロジェクトは小樽市の全面的な協力のもと、平成20年11月にスタートいたしました。小樽の観光が抱える問題点について、学生の視点で解決策を提案することにより、地域の活性化に寄与することをねらっています。これは本学のキャリア教育プログラムの一部として、経済産業省の「平成20年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」に採択され、このプログラムに参加した学生は、2月に東京で開催された「社会人基礎力育成グランプリ2009予選大会」で優秀賞、3月の決勝大会では特別奨励賞(チームワーク部門)を獲得しています。これから社会人となる学生たちが、同プロジェクトへの参加を通じて大きく成長したことで、人材育成プログラムとしても高く評価されたといえます。

(小樽観光が抱える4つの課題)

課題①:小樽観光の国際化対応策について

課題②:札幌圏マーケティングについて

課題③:地域ブランドの創出について

課題④:滞在型観光の推進について

発表会にはコメンテーターの小樽市長ほか6名のゲストが参加、学生は課題ごとに8チームに分かれ、約200人の市民を前にプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは2部構成で行い、第1部が課題①・②の4グループ、第2部が課題③・④の4グループが担当しました。休憩時間にはロビーでパネルセッションを行い、学生と市民が交流・意見交換をする場を設けたところ、熱気あふれる光景がいたるところで見られました。

■プログラム

12:30 開場・受付

13:30 開会

13:00 主催者あいさつ 国立大学法人小樽商科大学長 山本 眞樹夫  
経済産業省北海道経済産業局長 山本 雅史  
小樽市長 山田 勝磨

13:15 イントロダクション

●「マジプロ」のねらいとは ●「社会人基礎力」とは ●小樽観光の4つの問題点とは

13:30 プレゼンテーション第1部

①「小樽のクリスマスを盛り上げる！」 WBS(札幌圏)

②「情報発信で互いがつながる」 小樽120%(国際化)

③「外国人観光客のニーズに合わせたガイドマップの作成」 三ツ星(国際化)

④「小樽でビア樽ワイン樽」 NOVELTY(札幌圏)

14:10 休憩(学生によるパネルセッション)

14:25 プレゼンテーション第2部

⑤「小樽に長くいてもらうためのプラン設計」 SLAO(滞在型)

⑥「和のタルトを小樽スイーツに!!」ギャップデストロイヤー(ブランド)

⑦「小樽のご当地料理を作るう!!」 GJG MAX(ブランド)

⑧「携帯サイトで小樽の魅力を発信する~NoプランからKnowプランへ~」 MOTS(滞在型)

15:05 休憩(学生によるパネルセッション)

15:05 休憩(学生によるパネルセッション)

15:20 フリーディスカッションテーマ【小樽観光の課題と今後の取り組み】

●ディスカッション ●会場からの質問・意見 ●講評

16:45 閉会

## 2

その後、コメンテーターやゲストを含めた会場投票が行われ、第1部からは課題②に取り組んだ「小樽でピア樽ワイン樽」、第2部からは課題④に取り組んだ「携帯サイトで小樽の魅力を発信する～NoプランからKnowプランへ～」の2つの提案が、それぞれ最多票を獲得しました。

後半のフリーディスカッションでは、小樽観光の現状と課題について、学生からのプレゼンを踏まえて、今後の小樽観光のあるべき姿について議論しました。最多票を獲得した2チームの代表も交え、コメンテーターやゲストがそれぞれ地域で果たすべき役割と、今後の取り組みなどを自由に語り合いました。

- 司会 大津 晶 国立大学法人 小樽商科大学ビジネス創造センター副センター長
- 出席者
- 中野 健 経済産業省北海道経済産業局産業部サービス産業室長
  - 蜂谷 涼 小樽ふれあい観光大使
  - 田口 智子 (株)エフエム小樽放送局 制作・パーソナリティー
  - 成田 祐樹 小樽市議会議員・小樽商科大学大学院生
  - 加藤 あかね 小樽商科大学YOSAKOIソーランサークル「翔楽舞」初代代表
  - 工藤 和寛 (株)SEA-NA 代表取締役
  - 石塚 隆浩 マジプロ NOVELTY 代表
  - 高橋 亮太 マジプロ MOTS 代表
- コメンテーター
- 山田 勝麿 小樽市長



山本学長挨拶



プレゼンテーション



パネルセッション



フリーディスカッション

## 3

## 平成21年度ビジネス創造センター体制

平成21年度のCBCの組織体制をお知らせいたします。

- センター長 海老名 誠(ビジネス創造センター教授)
- 副センター長 大津 晶(商学部社会情報学科准教授)
- 総務部主任 田中 幹大(商学部社会情報学科准教授)
- スタッフ 中村 秀雄(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)
- 研究部主任 近藤 公彦(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)
- スタッフ 齋藤 一郎(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)
- スタッフ 加賀田和弘(商学部商学科准教授)
- スタッフ 堺 昌彦(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻准教授)
- 情報資料部主任 木村 泰知(商学部社会情報学科准教授)
- スタッフ 平沢 尚毅(商学部社会情報学科准教授)
- CBCフェロー 奥田 和重(副学長・大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)
- CBCフェロー 瀬戸 篤(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)
- 運営会議委員
  - 鵜沢 秀(経済学科) 高田 聡(商学科) 河野憲一郎(企業法学科) 行方 常幸(社会情報学科)
  - 八木 宏樹(一般教育等) 裴 崢(言語センター) 玉井 健一(アントレプレナーシップ専攻)
- ユーザーエクスペリエンス研究部門
  - 研究部門長 平沢 尚毅
  - 学術研究員 尾形 慎哉 桶谷 利幸 葛西 秀昭 山田 菊子(河合) 黒田 英雄
  - 事務補佐員 浅村 次美
- 文部科学省産学官連携コーディネーター 佐藤 準
- 地域連携推進コーディネーター 富樫 誠
- 事務局 蔵重 治(企画・評価室研究協力係長) 今野 茂代(助手) 田中 志帆(事務補佐員)

## CBC主要日誌（平成21年3月1日～21年5月31日）

CBC運営委員会	
3月1日(日) ～5日(木)	海老名センター長「GLジャパンプラザ」（仮称）上海視察
3月2日(月)	JICA研修会 和田総務部主任講演
3月4日(水)	第12回運営会議（持ち回り） 報告：3件
3月5日(木)	社会人基礎力育成グランプリ2009決勝大会（於：東京 読売会館） 大津副センター長、富樫コーディネーター参加
3月6日(金)	平成20年度 産学官連携研究成果報告会（於：札幌サテライト）
3月6日(金)	平成20年度 学外協力スタッフ会議（於：札幌サテライト）
3月11日(月)	第10回主任会議
3月12日(木)	学生論文賞北洋銀行への結果報告（於：北洋銀行本店）山本学長、大矢副学長、近藤委員長、 今野助手訪問
3月14日(土)	第5回小樽商科大学地域活性化セミナー/経済産業省「社会人基礎力育成・評価システム構築 事業」「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト成果発表会」（於：小樽市 民センター・マリナーホール）
3月18日(水)	学生論文賞授賞式（於：学長室）
3月24日(火)	北海道医療産業研究会 第3回セミナー 医療関連産業への進出のポイントを探る～ （於：札幌サテライト）海老名センター長講演
3月26日(木)	第13回運営会議 審議：1) ビジネス創造センター副センター長及び主任の選出について 2) 平成21年度CBC学外協力スタッフの委嘱について 報告：3件
4月8日(水)	第1回運営会議
4月8日(水)	第1回運営会議（持ち回り） 審議：1)平成21年度科目別予算執行実績（見込）調書（第1次）について
4月21日(火)	商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト成果報告（於：小樽市役所）
4月27日(月)	主任会議（持ち回り） 審議：1) 平成20年度予算執行実績調書（第4次）の提出について
4月28日(火)	第2回運営会議（持ち回り） 審議：1) 平成20年度予算執行実績調書（第4次）の提出 について
5月21日(木)	第2回主任会議

## 投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

- 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部  
Eメール: [cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp)

## 編集後記

このたび小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)のニュースレターVol.10, No.1を発行することができました。これも関係各機関・各位のご協力の賜であります。より充実したニュースレターにするために、今後ともみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(情報資料部)

国立大学法人

小樽商科大学ビジネス創造センター（CBC）

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

事務室 TEL 0134-27-5290

FAX 0134-27-5293

Eメール [cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp)

ホームページ <http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc/>